

名古屋

# 石田学園報

第15号 2004.8.20

星城大  
星城高  
星城中  
星の城  
星城大  
名英  
法

学  
校  
校  
園  
学  
院  
出  
版  
協  
会  
部

## 藍綬褒章受章

理事長・学園長 石田 正城

この度、はからずもこの榮譽を受けさせて頂きましたけれども、皆様方から本当に多くのお祝いやらそしてまた今日はこのように多数のご参列を頂きました。お忙しい中、あるいは遠路、海外からもお祝いに駆けつけて頂きました。皆様方のお気持ち、あるいはご交誼に、厚く厚く感謝を申し上げます。

この榮譽は名古屋石田学園の傘下の学校の教育実践が全国的に認められつつあるという意味から本校の職員にも名誉な事であろうと、お受けをさせて頂いたわけでありませう。もう 30 数年前になりますが、昭和 46 年に本学園の創立者の石田鑣徳、私の父にもあたりますけれども、やはり藍綬褒章を授与させて頂きました。その時に詠んだ歌があります。

「祝詞の しきりに来る菊花の日

厚き情けに 目頭潤む」

自分がその立場に立って、本当に多くの方々に支えられてきたのだなということをつくづくと感じています。先ほど浦野理事、大谷先生からもお話を頂きましたように、32 歳で突然、理事長、校長という立場になりました。何をしても良いやらわからず、会社に勤めておりました第 2 人を呼び戻し、3 人で遮二無二、自転車操業のように今日までやって参りました。さまざまな事がありましたけれど、教育の仕事を与えられたこと、そしておかげさまで 60 年間、1 日たりとも伏したことがないという健康な身体を両親から頂いたこと、本当に有難く思っております。

またその頃、私学協会の会長は金城学院の近藤武一先生であられました。大学の先輩でもありました関係からかもしれませんが、手取り足取りご指導を頂きました。その後、淑徳学園の小林素三郎先生、あるいは中部大学の山田和夫先生、御三人ともお亡



くなりになりましたけれど、私学の垣根を越えてご指導頂いた事、うれしく思っております。今ご祝辞を頂きました大谷先生はじめ教育の関係者、各界の皆様方には並々ならぬご指導を賜りました。今日の石田学園があるのもその賜であります。本当にありがとうございました。そして今日は、こんなに多くの方がお越し頂くとは思ってもおりましたけれど、皆様のご厚誼に、あるいは友情に心から感謝を申し上げます。この無粋な男をよくお育て頂きました事、改めて感謝を申し上げます。

もうひとつ、この褒章を頂きました要因として、皆様方の前と言うのはと思えますけれど、本校の教職員、本当によくやってくれております。私学は建学の精神が命ですが、私どもの崇高な教育理念をよく理解し、朝早くから夜遅くまで献身的に仕事をしていて頂いております。教職員皆様のおかげで石田学園がここまで成長してこれたこと厚く感謝を申し上げます。

今大変、社会状況が不安でありまして、この事は教育界も同じであります。こういう時こそ、青少年に対する教育がまさに大事だと考えております。この受章を機会に微力ではありますが、一層私学教育に力を入れていきたいという覚悟でおります。皆様方、どうぞ従来とお変わりなくご指導、ご鞭撻を賜りますよう、伏してお願いを申し上げます。御礼のご挨拶とさせて頂きます。ありがとうございました。

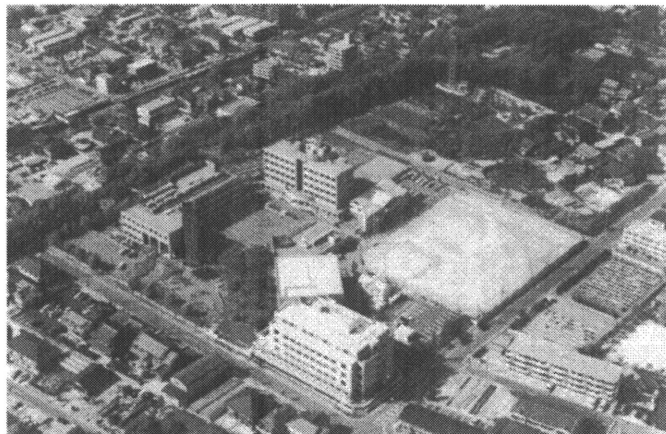
(2004.7.16 受章祝賀会「お礼の言葉」より)

## 星城大学 「経営学部新コースについて」

高度に進化し複雑化する現代社会では、従来の学問領域にとらわれない複合的な視野に立った人材が求められています。そこで、星城大学経営学部では本年度より、「医療経営学コース」、「スポーツ経営学コース」という2つのコースを開設いたしました。

近年医療の場では、超高齢化社会到来による経済効率を考えた病院経営が求められ、スポーツの分野においても健康の保持と増進のための生涯スポーツ活動への参加など、スポーツに親しむためのサービスの提供が求められています。この2つのコースは、こういった現代社会のニーズに合った人材の育成を目指しており、経営学部での6つの主専攻にプラス(卒業必要単位とは別)して開講しております。両コースとも、経営学部で学ぶ社会科学の知識を生かしつつ、広い視野から医療とスポーツにアプローチすることにより、単に経営学の知識を持っているだけでなく、医療実務やスポーツ科学分野の知識も兼ね備えた人材の育成を目指しております。

本年度の経営学部入学者386名のうち、107名が医療経営学コース、59名がスポーツ経営学コースを選択しており、2コースとも担任制をとり、個人カードを作成し、面接や意識調査のアンケートなどが実施され、学生と教員とのコミュニケーションを密にはかりながら学生一人ひとりきめ細やかな指導しております。医療経営学コースでは、医療情報管理学・医療事務・医療経営学総論・医療経済学などの講義が開講されています。特に、医療事務の講義では、3月の医療事務管理士試験を目標に学習に取り組んでおります。



〈星城大学キャンパス全景〉



〈星城大学3号館〉

また、スポーツ経営学コースでは、スポーツ産業論、運動・スポーツ生理学、スポーツ医学などの講義が開講されています。スポーツ活動に積極的に参加することで、運動による身体組織の変化や、なぜ健康を保持増進しなければならないかなど実践を通じて学ぶことを目的とし、特に所属学生にはスポーツのクラブ、または地域のスポーツクラブなどに所属することを義務付けております。両コースとも、前述のとおり、卒業単位にプラスして学んでいる為、学生にとっての負担は大きいようです。しかし、大変であるがゆえにモチベーションを高く持ち続けていることも事実です。実際に、医療経営学コースでは、医療事務の講義後、レポート作成の実践練習をしている学生もおり前向きな取り組みがみられます。スポーツ経営学コースにおいても、生涯スポーツ活動としてのニュースポーツのサークル活動において、技術や指導方法の習得に励んでおります。

星城大学では時代のニーズに対応できる人材育成のため、「医療と経営学」「スポーツと経営学」という新しい分野における両コースの基盤の確立を目指し、現在教職員と学生が一体となって取り組んでおり、今後両コースの展開に期待しつつ、さらなる発展につながる道を学生とともに築いていきたいと考えております。

## 星城中学・高等学校 「中高一貫教育体制の充実に向けて」

教育新生プランと銘打たれた、名古屋石田学園の第二建学宣言が石田正城理事長により提唱され、1年が経過します。“自修的努力”ということばが新鮮な響きを持って学園内を駆け巡っていますが、中学・高校においてもその理念に沿った教育実践とその改革に取り組んでいます。

今夏、島根県を中心に開催された平成16年度全国高等学校総合体育大会では、愛知県選手団650名中66名が星城高校の選手という快挙を成し遂げました。まさに「スポーツの星城」の面目躍如たるものがあります。大会に参加したバスケットボール部員一人一人が、各自の練習ノートに、毎日“日本一”という文字を朱書しているのを知りました。このバスケットボール部をはじめとする星城高校の各運動部は、これ以上はない課題を自らに課し、目標達成に向けて日夜練習に励んでいます。

一方、「進学」の星城」の一つの柱である中高一貫教育については、中学校の活性化をも含めた高校仰星コースとの6ヵ年一貫教育体制の充実に向けた改善・努力が行われています。そのために、次のような改正を行いました。

第1は、中学の平成16年度入試において偏差値50以上というハードルを設けるとともに、全員が仰星コースへ進学するということを明確にしました。中学も開校以来10年余が経過し、今春の大学入試では6年前の入学生が現役で京都大学に合格するという6ヵ年一貫教育のすぐれた実績を示しましたが、全体としては学力に幅があり外部評価の中で払拭すべき点は払拭することとしました。

第2は、このことを受けて仰星コースでは、第1学年の学級編成については星城中学からの進学者とそれ以外の中学からの進学者の履修速度の差に配慮して両者を別々にすることとし、今年度の学級編成でも試行的にその方式を前倒しして実施しています。他の中学からの進学者に対する第1学年次の補完体制を整えつつ、第2、3学年の学級編成は習熟度別の混合クラスにすることを基本に検討を進めています。

第3は、日常の教育活動や行事等の相互理解を深めるとともに教員の連携プレーを円滑にするために、これまで別々であった中学と仰星コースの分掌組織を一体化しました。このことにより一体的な学校運営、授業研究や教科指導・教育課程の共同での検討、各種行事の合同での実施、全教

員が6年間にわたり生徒の成長を見守って行くことができるようにしました。

第4は、授業時間数確保のため、2期制への移行を前提に中学・仰星コースとも年間の定期考査4回とする変則3学期制を導入しました。愛知県においては、中学の2期制への移行については問題はありませんが、高校に関してはまだ認められないために試行的に実施することとしました。しかし、校内的には定期考査の時期とのズレから微調整を要することがいくつかあります。

第5は、中学・仰星コースともに第8限の扱いを大きく変えました。仰星コースにおいては、これまでは強制的な全員参加型の補習を実施していましたが、第8限はフリーにして、補習への参加も希望選択制(夏期・冬期の補習についても)とし、部活動へ参加することもできるようにしました。生徒の学習や運動に取り組む姿勢が、自らの目的と計画に従って受動的なものからより能動的なものになることを期待しています。

以上が主要な改正点ですが、2006年度入試において、一部国立大学医学部入試で理科3科目が必須とされますが、それに対応した中高一貫カリキュラムの完成を急いでいます。

私立中学への進学者数は、全国的には首都圏・近畿圏を中心に増加傾向にあり、今年度も前年度より2千2百人増えています。これまで横ばい状態が続いている愛知県でも、今年度に入り各学校の説明会等への参加者が例年になく増加しています。いずれにしても、募集力はその学校の教育内容・教育体制を中心にした総合力であり、その意味からも質の高い中高一貫カリキュラムに裏付けられた充実した教育実践を展開する必要があります。



〈星城中学校・星城高等学校全景〉

# 星城大学リハビリテーション学院

# 「真の専門教育を目指して」

学院長 保村 謙一

専門学校星城大学リハビリテーション学院の学院長を拜命し、理学療法士の後進育成に寄与できることを心より感謝の念を抱くものです。本学院は、平成14年に開学された星城大学リハビリテーション学部リハビリテーション科から専門特化された教育課程(専門学校)として、昼3年制・夜4年制で名古屋の中心地である伏見に開校しました。

理学療法士教育の歴史を顧みれば、昭和38年に高等専門課程としての教育制度がスタートし、昭和41年にわが国最初の理学療法士・作業療法士(昭和40年理学療法士および作業療法士法成立)が誕生いたしました。医療界では疾病構造の変化よりリハビリテーション医療の担い手の育成が急務とされ、昭和51年学校教育法が改正され専修学校(専門学校)として職種教育が認められ、養成教育機関が徐々に増加し、さらに昭和54年より大学教育の中においても専門教育(短期大学3年課程)が認められ、その後平成7年には短大課程が大学4年課程に移行し、現在学卒30,000人以上を数えるまでにいたりしました。専門教育の教育内容も、高度な知識・技能を有する人材を社会に輩出すべく幾多のカリキュラムの改正が成され、職域も社会構造の変化より、医療界のみならず保健・福祉領域にまで需要が拡大してきております。

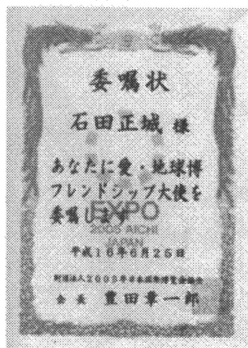
東海地区の養成教育現状では、4年制大学教育課程5校、4年制専門学校4校、3年制専門学校10校、夜間部課程の併設は本学院を含む3校のみです。法的には「専門教育課程は3年以上」とありますが、昨今では「量」より「質」が問われる時代であり、専門職業教育前に人間形成の基盤教育が必要といわれ、4年制教育の養成施設が増えております。高校生の進学率からみると一般大学の進学率は伸び悩み、医療福祉系の学部併設大学へ進学が増加し、専門学校への進学率が上昇し



ており、特に医療福祉系への進学が増えてきているように技術系のstatusが求められているものと考えます。

本来の専門教育は、人間形成の基盤教育の上に積み重ね培うものであり、基礎的な知識技能を有してのち専門性をupdateしていくことが専門教育のあり方と考えます。本学院の教育方針は、「ひと」と接する職業柄から心豊かな人間性(Humanity)および専門職としての主体性(Identity)の涵養と、リハビリテーション領域での技能(Technical skill)を修得し、これらの適性能力を見出し、それぞれの能力のskill upを教育目標とし、「保健・医療・福祉・教育」領域に貢献しうる人材の育成を目指すものです。

本学院は、星城大学との教育連携を図り、主に社会人をも対象とした専門教育の「サテライト・キャンパス」としての任を務め、さらには卒業後研修システムの構築を図り、医療福祉教育業界に呼応した開かれた専門教育センターにしていきたいと考えております。



## ～フレンドシップ大使 就任～

石田正城理事長が来年度開催される愛・地球博のフレンドシップ大使に任命されました。10年間、豊明市国際交流協会会長として、世界各国との交流事業に携わってこられましたが、今回さらに、豊明市の相手国ブルガリアとの一層の理解とお互いの真のフレンドシップ(友好関係)を築くため、豊明市はもとより、日本の国際交流に尽力されます。

# 「高校・中学校エリア総合開発」

本学園では、2006年の学園創立65周年、創立者石田謙徳先生の生誕100年を目途に、高校・中学校エリアにて、昨年度から校舎老朽化・耐震補強・第2東名工事に伴う再開発工事に着手しました。

昨年度は野球場(南風グラウンド)・新ソフトボールグラウンドなど第2東名にかかるエリアの整備を行い、今年度より校舎棟の整備にかかっています。当初平成16年度・17年度・18年度・19年度にわたって順次、校舎取り壊し・校舎建設を行っていく予定をしていましたが、耐震診断の結果、工事工程での騒音による授業への影響などの諸問題を考慮し、17年度に主たる教室はいっせいに工事着工し年度内に竣工する計画、体育施設の充実のため旧体育館(積徳館)は耐震補強出工事で改装し、新たに柔道場・剣道場を併設した体育館を新築する計画に見直しました。

具体的には下記の工程で建設工事を進めていきます。

今年度は、3学期から校舎の一部取り壊し、中庭のモニュメント・樹木の移設などの工事に着手します。

16年度:中庭のモニュメント・樹木移設工事

1号館一部取り壊し

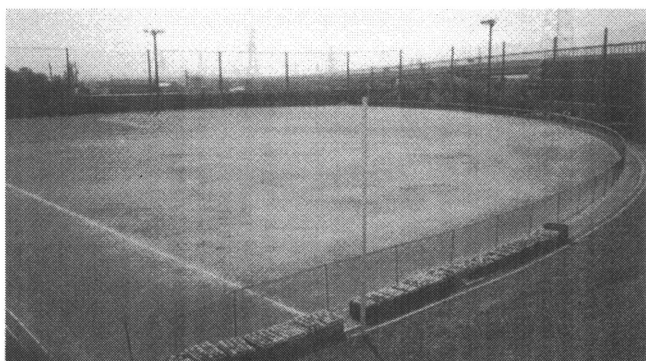
17年度:教室棟、特別教室棟の建設工事

1号館・2号館取り壊し

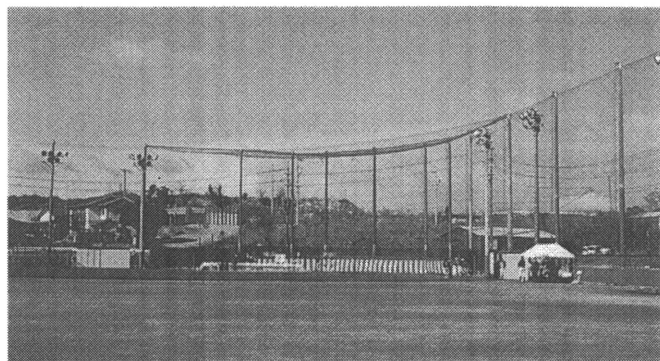
18年度:1号館・2号館取り壊し

管理棟、体育館、新食堂棟の建設工事

19年度:積徳館耐震補強工事・グラウンド整備工事  
なお、学内通路、騒音などで大変不便をおかけいたしますがご理解をお願いいたします。また、工事期間中は生徒の安全対策をしっかりとりながら進めてまいりますのでご協力のほどお願いいたします。



〈ソフトボールグラウンド全景〉



〈野球グラウンド全景〉



〈高校・中学校エリアイメージ図〉

## 星城大学NEWS

### ●開学3年の星城大学

開学3年目を迎え、基礎をゆるぎないものにして行くためには、いわゆる大学存続の三位一体と言える「入口」、「教育内容」、そして「出口」のそれぞれを確固たるものにしていく必要があります。

「入口」に対応する入学者数については、特に今年度は、事務局長を中心に教職員全員の努力の結果、定員を大幅に上回る入学者を確保できました。この入学数の大幅な増加には、経営学部の開学当初からの6つの基本コースに加えて、新たに医療経営コースとスポーツ経営コースを開設したことにあります。今後は、これら新設コースの充実したカリキュラムの編成が課題です。

次に在学生の充実した学生生活への対応として、今年度は学生のマナー向上を全学的テーマに取り上げた。これは「出口」にあたる就職問題との関連で提起されたことではあるが、本学園の建学精神の1つ「報謝の至誠」に基づいた礼節を尊ぶ学風の醸成を意図した所以でもあります。

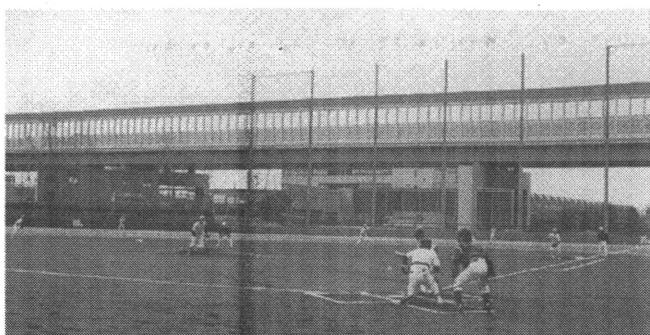
第一期生の卒業を1年余後に控えた今、「出口」対策は本学の急務である。特に経営学部については、学部長、就職部長を中心に全力を挙げてこの問題に取り組んでいる所であり、また、リハビリテーション学部においては、1期生全員の国家試験合格が目標です。

7月21日には、学生会執行委員諸君への慰労と、女子バレーボール部と硬式野球部の3部昇格記念、そしてトライアスロン・ジャパンオープン大会での優勝、並びに各種資格認定試験合格者への激励を兼ねて祝賀会を催しました。

今後は、大学院設置問題、さまざまな分野で地域社会との交流を深める企画など、更なる本学の発展に関わる諸課題が山積している中、1つ1つ地道に事を進め、学歌に有る「誉ある星城大学」を目指し前進し続けなければならないと考えております。

## 星城高等学校NEWS

### ●野球場・ソフトボール場完成



野球場・ソフトボール場が完成し、3月7日と4月5日にそれぞれ関係者や地元の方々に参列いただき、竣工式が盛大に行われました。式後、星城大学の野球部や豊

田自動織機・レオパレス21のソフトボール部との記念試合で花が添えられました。また、野球場には隣接して屋内練習場も新たに設けられて、今後の両部のますますの活躍が期待されます。

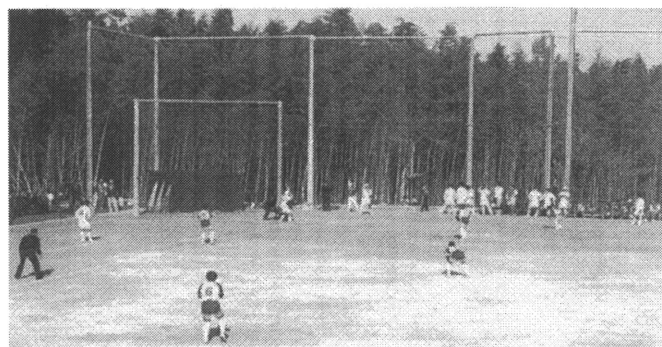
### ●全国高校総体 8クラブ 総勢66名出場!!

柔道・弓道・空手・レスリング・バレーボール・バスケットボール・ソフトボール・ゴルフ

平成16年度全国高校総合体育大会が8月上旬中国地方で行われました。厳しい県予選を勝ち抜き、本校からは8クラブ総勢66名の生徒が出場しました。『君の輝く一瞬が今伝説となる』のスーガンのもと、熱戦を繰り広げ新しい伝統を築きました。

#### 〈ソフトボール部 全国高校総体準優勝!〉

昨年の全国私学大会に続いての準優勝。日頃の猛練習が生んだ快挙である。次は、全国制覇を!



### ●ゴルフ部 4位入賞!

(全国高等学校ゴルフ選手権大会・於鹿児島県)

全国各地の予選を勝ち抜いた選手178名が参加。2年生荒木龍人君が男子個人の部で見事4位に入賞しました。

## 星城中学校NEWS

### ●よりよい授業をめざして

平成16年度の中学校入試では、高校の仰星コースとの6ヶ年一貫教育体制の方針を踏まえ、偏差値50以上を合否の基準とし、入学した生徒全員が仰星コースへ進学できることを明確にして実施しました。

学校では教科指導を始め、生徒指導、課外指導、諸行事等の教育が展開されており、中でも教科指導の中核をなす授業の質を高めることは、学校の発展のためには極めて重要であります。本年もよい授業を目指す「授業改善」を努力目標に掲げ実践しています。授業の主役は生徒で、生徒にとって分かり易く、しかも、新しい発見がある楽しさや喜びが味わえる場であることを大切にする取り組みです。

また、今年度の試みとして、外部の公立小中学校の先生方をお招きし、「理科」の授業研究会を開催しました。名古屋市内や、近隣の小中学校の校長先生や指導員の経験がある方など、24名の先生方の出席を頂くとともに、本校の教員も参加して実施しました。検討会では授業に関わる鋭いご指導、授業担当教諭に対する心温まるお言葉、星城中学校のありようについてのご示唆を頂くことが出来ました。

今度ますます質の高い教育の提供が望まれるなか、中高一貫教育6ヶ年を見通した確かな指導法の究明とその実践が急務であると思えます。

## 星の城幼稚園NEWS

### ●園児の笑顔でいっぱい

園児一人一人に目を向けた幼児教育の実践を通じ、「教育に責任を持つ」幼稚園として、保護者に安心感と、信頼感を与える環境作りを目指して頑張っております。今年度は、教職員が共通認識を持って保育にあたるよう、学年・部の打ち合わせや研修の機会を定期的に取りれるように、日程を工夫したり、行事の見直しを図りました。また7月に開催される東海・北陸教育研究愛知大会には全教職員が参加をし、研鑽に努めました。園児募集については、きらきら教室の平日実施、土曜日の園庭開放、週1回のプチきら教室(子育て支援)開催などを通じ、広くPRを推し進めています。

また、母の会(PTA)の活動も活発で、各種行事のお手伝いなど、積極的に取り組んで頂いております。7月24日には「なつまつり」を開催し、園児・保護者・きらきら教室のお子様など約400名が参加され、屋台やゲームなどを通じ親子ふれあいの楽しい一時を持つことができました。

## 名英図書出版協会NEWS

### ●事業の発展・業務の効率化

この春の名英予備校改組転換に伴い、これまで永年にわたり築いてこられた業務の一部を、事業部が引き続き継承することになりました。エディターとクックを組み、星城高校の入学前指導と夜間指導、本学園以外では2つの私立高校の進学補習を行っております。スタートして約半年が過ぎましたが、学校、生徒、保護者からの期待に重責を感じながら、やりがいも強く感じている今日この頃です。来年に向けて更なるステップを模索中です。

エディターとの業務連携は、事業部の得意分野の編集・印刷ノウハウとエディターの一般市場、教育市場を関連付けることによって、学園内外に新たな市場を創造するものと考えております。

また、業務の効率化、事務所・倉庫の省スペース化を図るため今年度から、荷造り・出荷業務をアウトソーシングすることにしました。併せて図書教材の在庫管理も提携していますので、事業部のSLM化は一段と進みました。また、データ管理もデジタル化を意識して、学園共通部分も含めた写真、印刷物をデジタルデータとしての保存・管理ができるように進めています。

### 〈連絡〉

法人本部の事務局部門が、星城大学(本館2階)に移転いたしました。従来の伏見エリアは法人本部企画秘書部門、名英図書出版協会、エディター、専門学校が運営されております。

## 星城大学リハビリテーション学院NEWS

### ●開校・・・活気あふれる・・・

4月10日(土)、本学第1回入学式がI部40名、II部40名の新入生、保護者、また多数の来賓の皆様の列席を得て2Fホールにて挙行されました。理事長・学院長の挨拶につづき、本校設立にあたりご尽力いただいた埼玉県立大学の細田多穂先生から心のこもったご祝辞をいただきました。それに答え新入生代表の高原さとみさんが力強く入学にあたっての抱負を述べました。

6月5日(土)には開学記念式典・祝賀会が行われました。医療、学校・企業・学園関係者150名余の列席を得、式典に引き続き、名古屋市立大学助教授 宮治眞先生の「学ぶこと、そして生きること、死ぬこと」と題する記念講演が行われ、来賓の皆様、学生も感銘を受けました。

7月24日(土)には本学院における初めての募集イベントとなる第1回オープンキャンパスが行われました。各地でのキャンペーンが功を奏し、現役高校生を中心に82名という多数の参加者を集め、教員による模擬授業や施設案内、車いすの体験授業等に好評を得ました。

## 法人本部NEWS



〈星城シンボルマークの氷柱〉

### ●祝賀会盛大に

7月16日(金)石田理事長 藍綬褒章受章祝賀会が東急ホテルにて約800名のご来賓・学園教職員にご参加いただき、盛大に挙行されました。発起人の浦野了理事より活躍の足跡がのべられた後、大谷和雄様(私学経営者協会会長)、鈴木礼二様(愛知県国際交流協会会長)からご祝辞・乾杯のご発声をいただき、歓談中には理事長ご夫妻がご来賓の皆様お一人お一人にお礼のご挨拶に回られました。

2003年 決算の概算

2003年度の決算が確定しましたのでその内容をご報告させていただきます。

資金収支計算書：当該会計年度の資金の動きを明らかにしたもので、教育研究活動及びその活動に付随するすべての収入支出の内容が記載され、消費収支計算書にはない前受金収入や、施設・設備関係の支出等が計上されています。

消費収支計算書：帰属収入から基本金組み入れ額を控除し残りを『消費収入』として、人件費、教育研究経費、管理経費など当年度で消費する『消費支出』と対比させ、その均衡の状況や内容により、経営状況を示したものです。

資金収支計算書

Table with 2 columns: Item and Amount. Includes sections for Income (収入) and Expenses (支出).

消費収支計算書

Table with 2 columns: Item and Amount. Includes sections for Consumption Income (消費収入) and Consumption Expenses (消費支出).

貸借対照表

Table with 2 columns: Item and Amount. Shows Balance Sheet (貸借対照表) with assets and liabilities.

(単位：千円)

平成15年度 寄附協力者御芳名

このたびは賛助にご協力いただき、誠に有り難うございます。ご芳志に厚く感謝いたします。この賛助金は、学園が運営する星城大学・星城高等学校・星城中学校・星の城幼稚園等の教育水準の向上、充実した教育環境づくりのために活用させていただいております。今後とも皆様方のご支援、ご教導を賜りますようお願い申し上げます。この協力者御芳名は、平成15年4月1日より平成16年2月29日までに寄附のお申し込みをいただいた方を掲載いたしました。

【寄付金合計額】 20,359,850円

Large list of names of donors and their respective amounts, organized in columns. Includes a small table at the bottom left for '協力企業様'.